

私、幸せをつくる人

ジャーナリスト
松本 侑壬子

この写真がカラーでないのが残念！

なんて美しい庭でしょう。京都・大原の築一〇〇年の古民家の前で大きなざるを抱えて微笑むのは、この家の女主人、英国出身のベニシア・スタンリー・スミスさん。庭には四季折々の花が咲き誇り、一〇〇種類ものハーブが育つ。すべてベニシアさんがこの家に移り住んだ一七年前から手塩にかけて育てたものだ。美しいもの、おいしいもの、居心地の良いもの……どれもが幸せになるものを生み出す魔法の手の持ち主。その暮らしぶりは繊細な美意識と強靱な意思、そして柔らかな包容力とに支えられている。

フスタイルは、放送をきっかけに静かな人気を呼んでいるという。だが、この映画はテレビ人気番組のダイジェストではない。こうした一見美しく楽しい自然と調和した生活を続けるためにベニシアさんが注ぐ驚くべき知的労力的エネルギーの質量、一見優雅で自由なベニシアさんの歩んできた半生の厳しき、孤独、それに負けない自己信頼と他者への優しさ。美しい画面から放射されるこうした目に見えぬ心の真実。ベニシアさんの柔らかな美しい英語のナレーション（字幕あり）が、心に染み入り、感動を呼ぶ。

母方の曾祖父は旧大英帝国インド総督や外務大臣を務めた名門貴族、父は新進シェイクスピア劇俳優という家に生まれたベニシアさんの幼少期。何世紀にもさかのぼる広大な領地に建つ城や有名建築家による壮大な邸宅、スペインの花にあふれた美しい別荘、南仏プロヴァンスやスイス・レマン湖近郊……離婚再婚を繰り返す母親に連れられて、ベニシアさんはさまざまな環境で育った。養父の買った農場では野菜作りや家畜の世話も経験した。一八歳で社交界デビューするが、社交界自体に疑問を感じ、一九歳でインドを目指し、陸路で二カ月かけてヒンドゥー教の聖地へ。八カ月の修行の後、さらに香港経由で日本・鹿児島へ。東京や京都の大会を経験後、ついに一九九六年、現在の京都・大原の家にとどり着く。二度目の夫と四歳の息子と一緒だった。



『ベニシアさんの四季の庭』

記録映画 (98分)

監督：菅原和彦

出演：ベニシア・スタンリー・スミス、梶山正 他

公開中

©ベニシア四季の庭製作委員会2013